

沼津市

明治史料館通信

2003.8.25 (季刊 年4回発行) Vol. 19 No. 2 通巻第74号



義勇奉公之碑 (金岡護国神社)

ぬまづ近代史点描 ⑤⑤

金岡地区の戦争記念碑

金岡護国神社

昭和三〇年に、旧金岡村の戦争犠牲者を祀るために現在地（神田町）に建てられたもの。当初の祭霊は223柱。

金岡護国神社周辺は、戦時中、昭和一八年頃に沼津海軍工廠建設のため強制買収された場所、その地に工員養成所が設立された。境内にある手水鉢、鳥居、幟立などは昭和一三年の建立である。明治期に当地に社寺は存在しないこ



沼津海軍工廠工員養成所見習科第二期生卒業記念写真（三善清雪行氏提供）

後背に大神宮の鳥居と社が見える。

帝国在郷軍人会金岡村分会（明治三九年設立）によって、大正元年一月三日金岡尋常小学校校庭に建立された。金岡村

義勇奉公之碑

つまり、海軍工廠の神社として祀られていた社が、金岡村の「英霊」を祀る神社となったものである。

護国神社として建立した。

『沼津市史』史料編 近代2 付図1で「大神宮」となっているところが、現在の金岡護国神社の場所、戦後、旧海軍工廠の大神宮社殿を譲り受けて金岡護国神社として建立した。

『沼津市史』史料編 近代2 付図1で「大神宮」となっているところが、現在の金岡護国神社の場所、戦後、旧海軍工廠の大神宮社殿を譲り受けて金岡護国神社として建立した。

とが「社寺明細帳」（明治一二年、金岡村役場文書・市立図書館蔵）や「一筆限絵図帳」（明治一三年、岡宮区有文書・当館寄託）等からわかる。昭和一三年当時、当地が

では「忠魂碑」といえばこの碑を指したようで、また「招魂碑」とも呼んだようである。題号は陸軍大佐従五位勲四等功三級大島虎毅の揮毫、碑上部の篆額「芳勲」の二字は沼津兵学校の第三期資業生であった古川宣誉（当時陸軍中將正四位勲二等功三級）の揮毫である。裏面には明治二十七八年役・明治三十七八年役、大正三四年役の戦病死者10名と出征者175名が刻されている。



開拓記念碑

『金岡の教育百年史』によれば、昭和四年に東熊堂の高尾山熊野神社境内に移転された。（註「招魂祭開催通知」（大正十五年、岡宮区有文書）では既に「戦病死者ノ招魂祭ヲ午前九時ヨリ東熊堂熊野神社境内忠魂碑前ニ於テ挙行致シ候」とある）後、この碑は金岡護国神社境内に移転され、現在に至る。金岡護国神社建立以前の戦没

者慰霊祭（招魂祭）は金岡村奨兵会の主催により毎年陸軍記念日である三月一〇日に、この碑の前で執行されていた。

開拓記念碑

昭和二五年三月三十一日に金岡開拓組合によって金岡護国神社境内に建立された。戦時中、海軍工廠の用地として強制買収された土地を、戦後取り戻し、苦難の末に「美田壱百町歩」としたことを記念するために建てられた。

沼津海軍工廠工員養成所跡地碑

昭和五六年六月に沼津工廠によって金岡護国神社境内に建立された。裏面に「服務綱領」と開閉校年月が刻されている。

〈参考文献〉金岡の教育百年史編纂委員会編『金岡の教育百年史』（一九七九）、鈴木亮平氏編纂『金岡村誌』



沼津海軍工廠工員養成所跡地碑

シリーズ
沼津兵学校とその人材

◇7

長崎奉行を父にもつ岡部長民

二百名余の沼津兵学校資業生の中には、自分の代で頭角を現した者も少なくないが、その一方、先祖や父祖が立派な足跡を幕府内で残した、名家の出身者もいる。第四期資業生岡部長民は、長崎奉行をはじめとする頭職に就いた父を持っていた。

長崎奉行は、江戸幕府が遠く長崎で、外交・通商・司法などの仕事を任せられた旗本の重職である。歴代の中には名奉行と称される者もいた。第一一三代として安政四年（一八五七）から文久元年（一



馬上軍服姿の岡部長民
(岡部伊久子氏所蔵)

年齢から判断し明治三十年代撮影か。他に帽子をかぶり杖を持った和服姿の晩年の写真も一枚残る。

八六一）まで在職した岡部駿河守長常もそんな一人である。彼の奉行時代には、踏絵の廃止、綿羊の飼養奨励、外国人居留地の設置、人足寄場の開設、長崎製鉄所の建設といった施策が行われた。また、オランダ人医師ポンペに対し解剖を許可し、蘭方医松本順らをしてコレラ予防に尽力させたり、病院を建設するなど、西洋医学に多大な理解を示した。長常には安政六年に撮影された袴姿の写真が残る。その開明的な立場から、攘夷派に狙われたという。

岡部家は、戦国時代には駿河今川氏の家来だった。後に徳川家康に仕え、娘が秀忠の御乳人になっている。長常の家は、分家のそのまた分家であるが、武蔵・相模で一三〇〇石の禄を食んだ。

長常は養父内蔵助の養子であり、実父は日光奉行・留守居などをとめた五〇〇〇石の旗本太田隠岐守資寧。長崎奉行就任前は、御小納戸、御小姓、御使番をつとめた。長崎離任後は、外国奉行、大目付、御作事奉行、神奈川奉行、御鎗奉行、軍艦奉行を歴任した。慶応二年（一八六六）四十二歳で没。開明派幕吏の代表岩瀬忠震の次女幸子を養女に迎え、山高信徳の妻に配した。信徳は、堀利熙（外国奉行・箱館奉行）や山高信離（横浜語学所生徒・幕府フランス留学生）の実兄である。

岡部長民は、弘化元年（一八四四）七月十日に長常の長男として生まれた。少年時代は長崎で過ごしたと思われる。父の跡を継ぎ第十代当主となる。先祖代々襲名の五郎兵衛が旧名だった。慶応三年二月に新砲兵差図役勤方に就任、

戊辰時には一ランク昇進していたようで、徳川家の駿河移封に随行すべき家来の名簿（「駿河表召連候家来姓名」）には、「大砲差図役岡部五郎兵衛」とある。後の階級で言えば砲兵中尉である。

明治二年九月、大砲差図役として同役だった瀬名義利・林正功とともに沼津兵学校第四期資業生（全五十九名）に及第した。移住後には、廉と改名したらしく、静岡藩の名簿「沼津御役人附」「静岡御役人附」には「岡部廉」（あるいは「廉」）で掲載されている。

学校の政府移管後も最後まで残留し明治五年陸軍教導団に編入された六十三名の中に彼の名前は無い。つまり途中で沼津兵学校を退学したことになる。しかし、八年（一八七五）の官員録には、陸軍砲兵少尉として掲載されており、やはり陸軍に入ったことがわかる。十二年時点では中尉、十四年時点では教導団教官・七等出仕。日清戦争に出征した静岡県出身兵士の氏名・略歴を町村毎に載せた『日清交戦静岡県武鑑』（一八九六年、佐野小一郎編、松鶴堂）に

お知らせ欄

◎企画展「沼津のあゆみ写真。ハネル展」の開催
本年は、沼津市が誕生してから80周年であることを記念して、様々な催しが開催されています。当館でも、夏の企画展として、沼津のあゆみを写真で振り返る展示会を開催します。懐かしい風景をゆっくり御覧下さい。

期間：8月28日(休)～9月28日(日)
※8月26・27日は展示替作業のため、4階展示室のみ閉鎖します。

◎歴史講演会の開催
講師：金澤史男氏(横浜国立大学教授・沼津市史編さん専門委員)

演題：「沼津市の成立とその後のあゆみ」市町村合併を中心に」
日時：9月13日(土)14時～16時
会場：当館講座室
定員：100名、参加費無料
申込み：当館まで電話で

◎沼津文庫の移管について
平成15年7月3日付で「沼津文庫」一六〇冊余が市立図書館から当館に移管されました。「沼津文庫」は、当館の展示テーマの一つである沼津兵学校の蔵書を引き継ぎ、沼津尋常小学校附属図書館として設立されたもので、県下で最も早く設立された公立図書館と言われており、沼津の貴重な文化遺産のひとつです。沼津文庫の蔵書は、その後市立駿河図書館、現在の市立図書館と受け継がれてきました。

8月15日に予定していた「平和を考える親子戦争史跡めぐり」は、当日荒天のため8月19日(火)に行いました。小学校1年生から中学校3年生までの子供とその保護者3組9名が参加し、市内12カ所の戦争史跡を見学しました。

◎古文書解読入門講座の開催
はじめて古文書に接する方を対象に、初心者向け講座(全5回)を開催します。

◎高校生のための一日学芸員体験講座の結果
8月8日(金)に行われた一日学芸員体験講座には、市内在住・在学の高校生9名と大学1年生1名が参加し、学芸員の仕事の一端を体験しました。

◎学芸員実習の実施
8月13・14日の2日間、当館において、学芸員資格取得を目指す学生6名が実習に臨みました。

◎平和を考える親子戦争史跡めぐりの結果

日程：9月7日・21日・28日・10月5日・12日の各日曜日
時間：午後2時～4時
講師：久保田富氏(沼津市史編さん専門委員)

会場：当館講座室
定員：40名
申込み：電話で先着順
費用：無料(辞書代は別)

沼津市明治史料館通信 第74号
編集 沼津市明治史料館
発行 沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九二二三三三五
FAX 〇五五九二二五三〇一八
http://www.city.nunobiki.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm

は、駿東郡楊原村の箇所に「同砲兵大尉岡部長民氏下香貫二出廿七年八月四日応召渡清各地累戦シテ廿八年七月十日凱旋スルモ論功行賞未定」とある。すでに東京在住だったにもかかわらず、同書に収録されたということは、本籍地が楊原村に残っていたということである。また、維新時の移住地が下香貫村だったと推測できる。自身も出征したらしいが、三男を日露戦争で亡くしている。砲兵少佐で退役した。大正七年(一九一八)五月十七日没。法名は広徳院殿真月浄照大居士。妻の高子(瞭然院殿高雅妙燦大姉)は、昭和十三年(一九三八)まで長生きした。(参考文献)鈴木要吾『蘭学全盛時代と蘭疇の生涯』(一九三三年、一九九四年復刻、大空社)、『長崎事典 歴史編』(一九八二年、長崎文献社)、『爽快―岩瀬忠震顕彰碑建立記念誌―』(一九八六年、岩瀬肥後守忠震顕彰会)、『横浜開港の恩人岩瀬忠震』(一九八〇年、横浜歴史研究普及会)、『江戸幕臣人名事典 一』(一九八九年、新人物往來社) (樋口雄彦)